

荒木山通信

2021年4月

第11号

北房文化遺産
保存会

荒木山から北房全域へ

―会の名称も変更―

県北最古級の荒木山東塚と同西塚を広く紹介する目的で、平成二十八年二月に発足した「荒木山を顕彰する会」が令和二年で五年を経過しました。この間、土地所有者の方々、地域の皆さんにご理解とご協力をいただいて、幾度も現地に入らせていただき、掃除などを続けて来ました。

中でも平成三十年と令和元年には、真庭市が開催した北房公民館講座で、東塚と西塚の非破壊調査が実施され古墳の構造や地底の状態がおぼろげながら分かって来ました。最新機器を駆使したこの調査は、真庭市・同志社大学・講座生（市民）の三者が協働したもので、参加者にとって胸躍る

日々でした。この調査の報告については、東塚は行われましたが、西塚についてはコロナウィルス感染対策などもありなされていません。また、令和二年八月十九日の「市長と話そう」で、発掘調査の要望をし快諾を得ましたので、大いに期待しています。

これらの経緯を経て、当会では発掘調査という重要な課題はあるものの、荒木山での活動は一応終え、今後は適時掃除をするなどして古墳の保護に努めることとしました。そして、会の名称を「北房文化遺産保存会」と改め、今までの会員・役員で活動を続けることとしました。今後におきましても、皆さんのご理解・ご支

援をお願い申し上げます。

発掘調査に期待

前記の「市長と話そう」で古墳の発掘について、市長は「令和三年度の当初予算に準備の経費を・・・」と話し意欲を示されています。当会では、非破壊調査で埋葬主体が存在する可能性が高いとされる両古墳の発掘により、三世紀から四世紀におけるこの地域の首長の姿や中央との関係性が分かるのではないかと大いに期待しています。

なお、東塚においては戦国時代に砦として利用されたため、前方部南側をはじめ改変が激しく、砦跡の調査も加わり発掘調査は困難と言われています。従って、西塚の発掘調査を実施すべく、市において目下準備を進めてもらっています。発掘調査を実施することについては、当会としても市と連携を密にし必要な協力をしていきたいと考えています。

（北房文化遺産保存会

代表 久松 秀雄）



【湯荒神の社と五輪塔】

西の明日香村ものがたり

湯神は、往時の美作の国との国境近くに在る。そこには古くから湯荒神様が祀られている。地元の湯川集落で、今でも年に一回祭りを続けています。湯荒神様の傍らに「湯神旅館」が在り、女将の梅野さんが健在であった頃には、ご馳走もたくさん作ってにぎやかに祭りが出来ていたというが、旅館も五十年ほど前に廃業している。

私が梅野さんを訪れたのは六十年ほど以前のことであつた。梅野さんは七十七歳半ばと思われたが、色白でつるりとした小顔に、吊

り上がった黒い眉が備中神楽の能面を思わせた。

「若い衆、今日は何を調べに来たか？」梅野さんのしわがれた声がした。

「湯荒神様の話を聞きたいんです。」と言うと、

「ここの湯は真賀へ預けとるんで、新しいゴザを真賀まで敷き詰めりやあ湯が戻ってくる。」そう言う

つて梅野さんは長キセルに火を着けた。

「湯荒神が湯の入った壺を提げてゴザの上を行き来している動画が浮かんた。神様と人間が一緒に暮らしている。こりやあとんでもねえ古い話じゃなあ。」私はそう思いながら旅館を辞し、すぐ下手の細い谷を十メートルほど上がった所に在る湯荒神の社へ参った。そこには、湯荒神の社と並んで総高一・二メートル（台座共）の堂々とした五輪塔が立っていた。

その五輪塔は、豊臣家重臣の大野主馬が元和元（一六一五）年の大阪城夏の陣

で敗れ、落ち延びて境地区で亡くなったので祀ったと伝える。また、一説には赤

松二郎という者が、叔父の赤松満祐との争いに敗れ境の地で自害したとも言われ

水田村誌は前者を、上房郡誌は後者を推している。なお、五輪塔は、大正二

年発行の水田村誌に「湯神に移されている。」とあることから、それ以前に何ら

かの理由で備中川を渡り湯荒神と並び祀れることになったのである。

特別寄稿

北房と骨と補欠の学生

同志社大学文化情報学部准教授 津村宏臣

私自身の専門は先史人類学・地理学であり、古墳時代の遺物の考古学ではない。岡山大学考古学研究室で学びながら、「墓」から生者の世界の全てを語るような、古墳時代研究に「さっぱり」なじめなかった。そのため、学生時代は古墳構築の土木・施工や、設計・測量技術の研究を専らに、自然遺物や周辺分布調査などをして

いた。当時の岡山大学考古学研究室は、定北古墳調査の整理、定東塚・西塚古墳の発掘調査と、まさに「西の明日香村」北房の基軸となる調査をしていた。その中で私は「岡大考古の「4番のエース」」からはほど遠い、どちらかと言えば「8番ライト」か補欠、あるいは戦力外通告を受けた、ついで

の学生だった。でも、だからこそ分かること、というのも多い。主軸のレギュラー選手がやらない「宿舍係」や「広報係」をしたことで「ACCO P」に通い詰め、毎朝穴が開くほど広告をチェックした。九十三年の米不足の年は、タイ米の混じらない米を求めて町内を歩き回った。広報紙をポスティングするのに住宅地図を取り寄せ、「どの地区」に「誰」がいて、などと調べていた。雪

小僧で何度も失敗する朝を迎えた。県道標識用の古墳のデザインを頼まれれば、それもやった。分布調査にまわされ、文字通り、中津井・定を離れて、町内のあちこちを「さぼり」歩き回った。だからこそ、あの頃の学生の中では、きっと誰よりも「古墳以外の北房」に関心があった学生だったし、人や地域に触れる人類学・

地理学への関心は、「こころで形作られた」と言っても言い過ぎではない。生まれ故郷以外の場所を、こんなに楽しんだ場所は他に無い。岡山を離れた後、当時の新納教授と本を出す計画が持ち上がった。二人とも遅筆ということもあり、「缶詰にならなきやダメだ」と詰めた缶は「中津井陣屋」だった。真冬の「陣屋」は私には酷で、檜風呂で大風邪を引いた。それでも、鰯市や折々に、「ちよつと寄つて」行く故郷であり続けた。

そんな私には、どうしても心残りの「骨の話」がある。若い私には勇気がなく、書けなかった。今も文字にするには勇気がいる。当時、古墳研究の主力選手達（監督も）からは戦力外通告を受けていた私は、「石灰質の石室石材だから骨が残る」ことに注視、石室から出土する人骨や動物骨に目をつけた。動物の供犠は特定できなくても、供

物に何か動物はないか？と知りたいと思った。定東塚西塚は、仏教が日本に伝来した後の古墳であり、畿内には仏教がある。なおさら動物食なり供犠儀礼なりは、人類学徒としては知りたいところでもあった。

想像通り、定東塚からも西塚からも、人骨・動物骨は出土した。が、その中で一つだけ「異様」な骨があった。それが、東塚の閉塞石直下（文字通り石の下）から出土した「斬首された？猿の頭蓋骨」だ。自分で取り上げたのだから間違いない。

最初は「紛れ込んだか？」と思ったが、どうやら土層解釈からするとそうでもない。きつちり第2頸椎より遠位しかなく、狸や猪が死肉を運び込んだとも考えにくい。バイトマークもない。これは、一回目の閉塞石で石室が閉じられる直前（というか同時）にそこに置かれた「頭」なのか。少なくとも肉はついていたはず、顎もセットなのだから。それらの骨の同定のため、動物考古学の権威である国立歴史民俗博物館の西本豊弘先生のところに通い、西塚の骨の同定作業も進めていた。これが縁で、私は西本門下になり人類学を修めるのだが、まだ岡山大学の戦力外選手の時代。冗談半分に

「先生、こん中に「キジ」の骨とかないつすよね？」と何の気も無しに話すと「君ねえ、骨じゃあ難しいの知ってるだろ？さつき、確かニワトリかキジかはあったよ」

とあっさり言われた。西本先生は家畜化の研究を進めておられ、「鳥は難しい」といつも言われていたので、まさかねえとは思いつつ。その後、再度一度「まさかねえ」と思いながら、土井二号墳をあたると、なるほど、犬の頭蓋骨か。陶棺の下からねえ。なるほど。

谷向かいには、そう言え

ば「吉備大宰」大谷一号墳
か。確か、中央官人だっ
た人だよな。畿内から来ら
れた人、鬼神や邪気を払う
力を持った「川上」から流
れて来るには、もってこい
のイメージ。そう言えば、
鬼の城という場所（山）も
ありますね。県南には温羅
か。北房はそこを睨むの
にもってこい。あ、そう言
えば、分布調査で歩き回っ
た「郡神社」の祭神は大吉
備津命だったなあ。と、こ
まで想像して、「怖くな
って」文字化をすることを
避けた。

あれから四半世紀経った
今、それでもまだ勇気がい
る。確かに、考古学的にわ
かっていることは、数少な
い。歴史学的にわかってい
ることも多くない。しかし、
それらが西の明日香・北房
という場所で「こうも積み
重なる」と、戦力外通告を
受けた「骨屋」で「分布調
査屋」だった学生には、た
だの偶然には思えなかった。
今、いい歳的人类学者と
して改めてどう思うか、と
問われれば、「まだ怖い」。
しかし、これから地域のみ
んなで「きちんと調査して

いけば“きつと、あの時の
「偶然」は、ひよつとする
と歴史の「必然」となる日
も、来るかも知れない、と
思う。そのため、畦田さん
のご厚意もあり、ここで最
初で最後の、文章化をして
おこうと思う。数十年前、
ここ北房が、西の明日香村
にして〇〇伝説の故地とな
ったとき、「最初にそれを
寝ぼけて宣のたまわった戦力外
の先生」として、そしてそ
の文章がここにあることを
祈りつつ。



定東塚出土の猿の頭骨

※ 特別寄稿をお願いした津村
宏臣氏は、真庭市政策アドバ
イザーをされています。

平成三〇年から令和三年に
かけて行われた北房公民館講
座「まに大附属ふるさと研究
所」の郷授として荒木山東塚
・西塚古墳の調査や活用等につ
いてご指導下さいました。

地域の歴史を知る体験講座の実施 アンギンと養蚕

地域おこし協力隊で活動
している橘高です。私は、
北房ふるさとセンターで歴
史体験活動をし、地域の歴
史活動を盛り上げたいと動
いています。

昨年には石包丁づくりや
縄文土器づくりなどを開催
し、地域の皆さんに楽しん
でもらえました。今年は、
より北房の歴史や郷土に関
心を持ってもらえようとな
体験を用意していきたいと
考えています。

五月二十九日には、「縄
文アンギン編み体験」とい
う縄文時代晩期から続く編
み物をしていきます。アン
ギンはコモやムシロ、簾を
作る道具や技法が同じで、
植物繊維で作った糸を「も
じり編み」という編み方で
編んだ布のことをいいます。
縄文の人々はアンギンの衣
服なども作っていました。
ふるさとセンターの民具
室にある孤編み機を見て思
いついた今回の体験講座で
は、二時間使ってアンギン
作品を作ってもらいます。



孤編み機

興味のある方は是非お越し
ください。

六月には「北房の養蚕を
知ろう!」という、北房で
かつて盛んに行われていた
養蚕の話聞き、実際に使
われていた道具を使って糸
繰りができる講座を開催し
たいと考えています。

この講座に関しては、実
際に家で養蚕をやっていた
という方に協力していただ
けると嬉しいですよ!糸繰り
に使う繭の生産のために、
蚕を卵と幼虫からちよつと
飼ってみることにしました
ので、ご指導いただけると
嬉しいですよ!養蚕をして
いた頃の話もたくさん教え
てください!

体験活動を通して、北房

の子どもたちがもつと自分
たちの町に関心や誇りを持
つてくれるようになったら
と思います。(橘高 七海)



桑の葉を食べて
いる蚕の幼虫

【道しるべ整備事業に寄付】

当会が、本年度から取り
組んでおります「西の明日
香村・道しるべ整備事業」
の活動資金として八十万円
の寄付がありました。会
では資金確保が課題であつた
だけに大変感謝しています。
寄付者からは「古墳など
文化財について関心があり、
皆さんと一緒に活動したい
が仕事の関係で時間が取れ
ない。活動の資金として少
しでも役に立てば有り難い。
なお、広報の際は匿名とし
てほしい」旨の文書が添え
られていました。
会員の皆さんへお知らせ
すると共に紙上にて厚くお
礼申し上げます。

縄文の北房を尋ねる

北房文化遺産保存会

顧問

戸村彰孝

近世史学の祖といわれる新井白石は古史通或問のなかで「太古のことはすでに滅んでしまい、わずかに伝え聞くことも、事実のようでもあるし、そうでないようでもある。覚えていようでもあるし、夢を見ているようでもある。あるいは隠れ、あるいはあらわになっている。・・・それが事実」に近く、その意味が正しい正しいと判断したところを証拠として、解く必要のあるものを解きあかし、疑わしいものは疑いとして「と名言を残した。」

昨年二月、私はかつて田中角栄の日本列島改造論によって開発が進められた中国高速自動車道建設に関係する「遺跡発掘調査書」をみる機会を得ることができた。北房では、桃山・谷尻・備中平の三遺跡で、いずれも縄文・平安時代までに及ぶ重層遺跡である。

の種子、と共に谷尻の出土品が約四キロ下流の宮の前遺跡の出土品と大変類似していることだった。近藤義郎編の岡山県の考古学の縄文遺跡の分布図によれば、県内の遺跡は中国山地の裾野に沿って東西に伸びている。同一の集団の移動かどうかは分からないが人の交流を示すものであろう。

あれこれ一年間、縄文に関する本を漁っていたが、やはり「百聞は一見に如かず」ということに気付いて、県の古代吉備文化財センターを訪ねることにした。

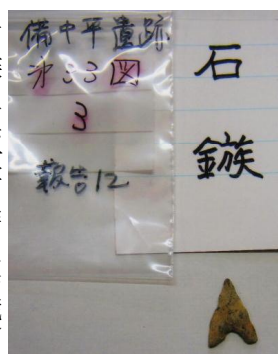
桜の花がチラホラと咲き始めた神道山の参道を上って三月十九日十三時到着した。玄関に迎えてくれた調査一課の團さんは、依頼していた出土品のある二階の一室に案内してくれた。机上に大きい白紙を敷き、小さなビニール袋に一つずつ入っている出土品を丁寧にカメラの前にそっと置いた

数千年の昔が今私と共にある、という深い感慨におそわれた。

今回は撮影した二十二枚の中から、サヌカイトの石鏃（早期・備中平）、石斧（早期・平）晩期の一時期を画した様式として「谷尻式」と命名された盛付用浅鉢と煮炊用の深鉢（谷尻）、弥生時代に接続する晩期の突帯文土器（谷尻）の五点をご覧に入れることにした。



石斧（県教育委員会蔵）



石鏃（県教育委員会蔵）



突帯文土器（県教育委員会蔵）

(四)



深鉢（県教育委員会蔵）

(三)



浅鉢（県教育委員会蔵）

(二)

草創基

縄文各期の一口メモ

(私の覚書より)

(一六、五〇〇年前から)

旧石器→新石器移行期
無文土器・隆線土器・石鏃など新石器

大型動物の絶滅、狩猟対象は猪・鹿・兎

(一一、五〇〇年前から)

縄文確立期

気候温暖化・日本列島の形成、尖底土器、押方文土器、貝塚の出現、土偶

前期

(七、〇〇〇年前から)

発展期

温暖化と縄文海進・台地居住、人口増、前期の五〜十倍、

東日本二二万人、

西日本一万人、

大規模集落、装身具

中期

(五、五〇〇年前から)

縄文最盛期

火焰土器・縄文のビーナス（土偶）、大型集落、人口二六万人、

クリ・クルミ林・ウルシ利用、マメ・ヒエ

(五) 後期

(四、四〇〇年前から)
初期は気候冷涼期あり、
人口減少、停滞期、
壺・皿などに精製土器、
煮炊用深鉢型土器、
集団内に階層出現

(六) 晩期

(三、三〇〇年前から
三、〇〇〇年前まで)

※年代はAMS法による

縄文の終末
稲作の伝来、冷涼化、
人口減、キビ・アワの
耕作、焼畑農耕、
末期突帯文土器、突帯
文直前の谷尻式土器
(平井勝)

トロイ遺跡

二〇二〇年六月、古代ローマのファレリイ・ノーヴィという町を丸ごとレーダー探査し、地図を作ること

に成功したというニュースがありました。

レーダー探査と聞けば、荒木山古墳調査に参加した人にはおなじみの非破壊探査技術です。こうした海外の遺跡については触れる機会があまり無いと思いますのでここでは世界遺産として有名なトロイ遺跡をご紹介します。

トロイ遺跡は、一八七〇年(明治三年)にシュリーマンによって発掘されましたが、自著『古代への情熱』は、今でも世界中で読まれています。

トロイは、ギリシア神話を題材としたホメロスの『イリアス』に出る都市で、ギリシア軍の将オデッセウスによる木馬作戦(いわゆる「トロイの木馬」)によって一夜にして陥落したとき話はおそらく創作であろうと考えられています。

トロイ遺跡は、現在のトルコ共和国、アナトリア半島の北西、ダーダネルス海峡に面した町チャナッカレ近郊の丘にあります。五ヶ年程前、念願かない、美しいエーゲ海が見える「ヒッサリクの丘」に立つことができました。

この遺跡は非常に複雑な九層から成っていて、後の調査でシュリーマンがトロイであるとした第Ⅱ層Gは、紀元前二五〇〇〜二二〇〇年前のものだとわかりました。

実は、ギリシア神話でトロイ戦争があったと推定さ

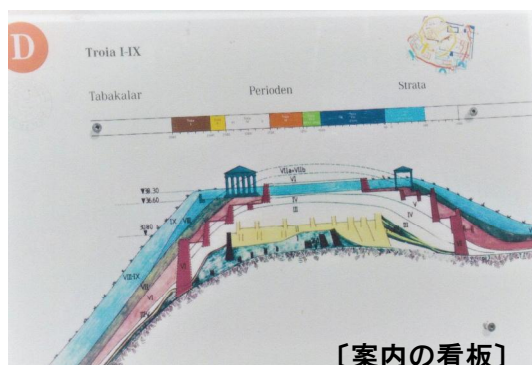
れる年代は、第Ⅶ層Aだったのですが、シュリーマンの発掘により大きく削られ、ほぼ消失してしまっているのです。

また、現在まで発掘されている遺跡の規模は、都市というより城塞程度であることなどから、この遺跡が伝説上の古代都市トロイであるという決定的な証拠はまだ出ていないというのが現状のようです。

現在も発掘作業は行われているようですが、崩れた石垣や切石が転がっているところが多く、見ただけではよく分かりません。しかし、見学ルートは整備され

ており、順路に従って見ていくと、あちこちに看板があります。それには、詳細な説明が写真・図などとともに記されています。また、有料ですが、美術展などによく使われているイヤホンガイドもあります。説明看板の番号から、音声による説明を聞くことができます。穏やかな日差しを浴びながら、のんびりと遺跡や周りの風景を楽しむ人たちが、いつの日か、「西の明日香村」北房でも、こんな光景を見ることができればいいですね。

(平城 元)



【案内の看板】

大宰の墓が最有力！

―大谷一号墳の被葬者は？―

古墳の被葬者は、墓誌でも出ないと特定できない。個人名が分かっているのは、天武・持統陵以外には多くありません。

大谷一号墳の被葬者についてあえて言えば畿内の古墳と非常に密接な関係を持った古墳であり、また、時期が七世紀の終わり頃で古墳を造れる階層は限られています。奈良時代の養老律令には三位以上という規定があり、六四六年の大化の薄葬令以後、墓造りに対する規制が厳密になっていく可能性があります。養老律令の三位以上という規定に照らすと地方で該当するのは、大宰という役人しかいないようであります。

文献に吉備の大宰が出て来ます。吉備の大宰は、広島・東部から島根・鳥取、あるいは兵庫県西部



【講演内容を記した平井勝氏の論文集】



講演中の平井氏

【平成八（一九九六）年三月開催のシンポジウム「終末期古墳と大谷一号墳―被葬者は吉備大宰か―」における平井勝氏の講演の一部を抜粋しました。】

定東塚・西塚・定北古墳・四号墳・五号墳など五基の方墳が継続的に一つの屋根に築かれています。七世紀の後半と考えられる定北・四号・五号墳は大谷と同じような立地の所に造られており、地元の有力豪族は屋根上に継続して築造しているようです。それに対して大谷は単独で築かれ、畿内と密接なつながりを持った古墳であること。また、大谷の近くは大宰の地名が残っていることなどから、大谷一号墳は吉備の大宰の墓が一番有力ではないかと思えます。

令和三年度の活動

一月 総会

決算・予算、活動報告や計画案の審議。会則や役員について等。新型コロナウイルス感染症拡大のため書面による。

三月

柴掻き・草刈り
雨天のため中止。秋に実施予定。

四月

役員会

五月

（予定）看板の設置場所の選定と看板の製作・設置等）

秋

古墳調査への協力
柴掻き・草刈り
（荒木山古墳）

入会のすすめ

私たちと一緒に北房の文化遺産を守り、知らせ、次代へ伝えていきませんか！

趣旨に賛同し、入会を希望される方は、本会役員にお申し出下さい。そして、年会費三千円を入会時に納入下さい。会員へは、当会の活動状況や計画をお知らせするほか、当会や真庭市が開催する歴史関係の研修会・講演会なども案内します。

なお、本会発行の「荒木山通信」は、北房振興局・北房文化センター・北房ふるさとセンターに置いてあります。

二月

事務局会

一・三月

まに大付属ふるさと研究所へ参加